



団地の中心でつながりを生む

- この先の住区センターの姿 -



松江 春花さん (大分大学)

団地の商店街である近隣センターは住区における身近なサービスの拠点として居住者の暮らしを支えてきた。敷戸団地にも同様、その中心部に住区センターがつけられ、購買の場として人が集まり賑わっていた。しかし、衰退によって商店街の空き店舗が目立つのが現状であり、また、広場には車が介入し、歩行者は安心して過ごすことができない。この先、住区センターはどう変わっていくべきであろうか。

今後の姿を考える上で、改めて実現されなかった住区センター計画案に戻ると、その計画は歩車分離を徹底し、歩行者空間としての広場を中心としたものであった。そして、この形こそが現在に求められるのではないかと考える。

広場を中心とした空間の中で、現在団地に必要とされる機能が相互に交わる場を形成し、高齢化の進む中で希薄となった人とのつながりを生むことによって居住者同士が支え合う住区センターの姿を提案する。